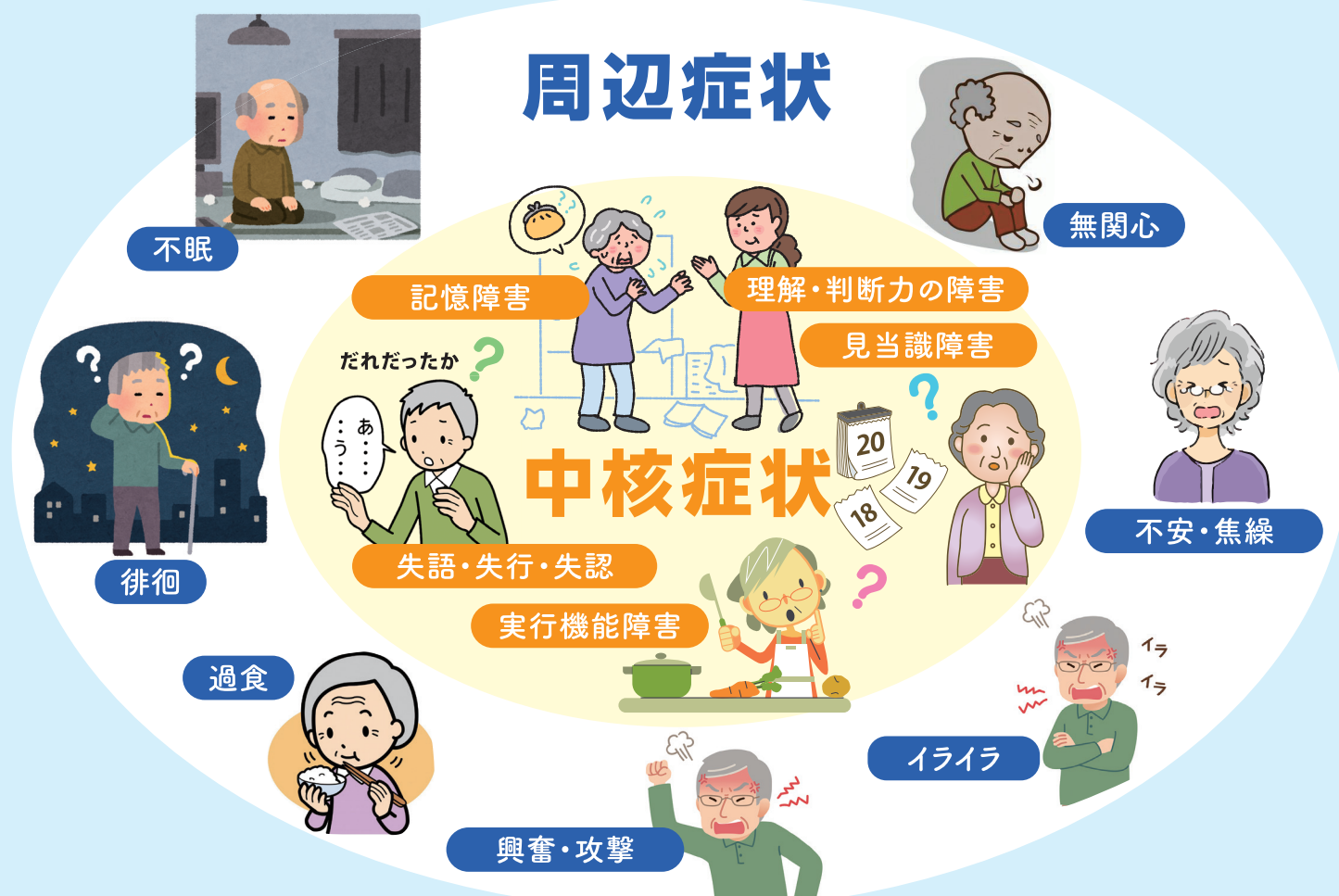
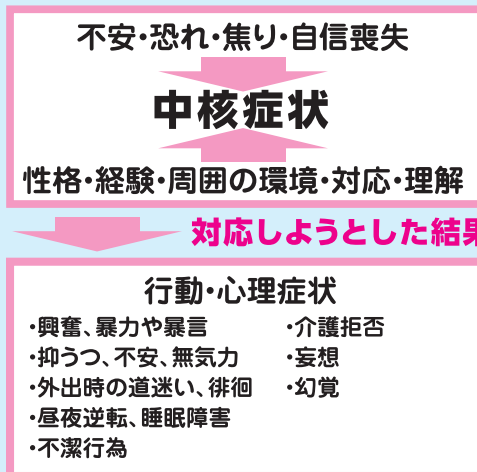




行動・心理症状（周辺症状）について



中核症状は脳の神経細胞の障害によって起こる認知機能障害で、症例には「新しいことが覚えられない」「日付や場所がわからない」「物事の段取りができない」などが挙げられ、ほぼ全ての人に認められます。

一方で、周辺症状は中核症状と環境要因・身体要因・心理要因などの相互作用の結果として生じる障害です。様々な精神症状や行動障害が顕在化してくるので、対応が難しくなってしまいます。

認知症は時間の経過と共に進行する病気です。完治することは難しいですが、早期発見し適切な治療や対処をすれば、その人らしい充実した暮らしを長く続けることが可能です。

【認知症の症状まとめ】

認知症に伴って様々な症状が出てくるので、対策法を知っておくことは重要です。問題行動が目立つようになったら、注意しつつも優しくフォローすることが大切です。認知症には種類があるので、それぞれの特徴などは知っておきましょう。介護が必要になるとお金が掛かるので、早いうちから準備しておくことがなにより大事になります。



認知症初期症状その①「もの忘れ」

- ・同じ話を繰り返す
- ・置き忘れや片付けたことを忘れ、常に探し物をしている
- ・同じものを何度も買ってくる
- ・鍵や財布をなくす
- ・料理の味付けがおかしくなる

その②「理解力・判断速度の低下」

- ・買い物の支払計算が難しくなり、小銭があっても常にお札で払う
- ・周囲の会話速度についていけず理解が難しくなる
- ・信号が赤になりそうときに渡ろうとする

その③「集中力・作業能力の低下」

- ・テレビドラマの筋が追えなくなり、見なくなる
- ・趣味の手芸や工作、料理などの家事を途中で放棄してしまう

その④「精神的混乱や落ち込み」

- ・ささいなことで怒りっぽくなった
- ・「財布を盗まれた」など、人を疑うことがある

認知症の種類によって初期症状は異なりますが、多くの場合、「もの忘れ」から気づかれることが多いようです。
また、比較的初期からものごとの「理解や判断速度の低下」や「集中力・作業能力の低下」も始まるため、日常的な家事や趣味などにも変化が現れます。

中核症状について

1

記憶障害…

新しいことを覚えられなくなり、さっき聞いたこと、したことを記憶することが難しくなります。次第に、覚えていたことも忘れるようになっていきますが、自分が子供の頃の記憶など、昔の出来事は比較的覚えています。

2

見当識障害…

今がいつ（時間、年月日、季節）で、ここがどこ（場所、何をしているのか）という、自分が今、置かれている状況を把握することです。自分と他人との関係性の把握も見当識に含まれます。

3

実行機能障害…

物事を行う時に計画を立て、順序立てて効率良く行うことが難しくなります。

4

理解・判断力の障害…

理解することに時間がかかるようになり、情報を処理する能力も低下して、一度に2つ以上のことを言われる、早口で言われると理解することが難しくなります。いつもとは違う出来事が起こると対応できず、混乱することがみられます。

5

失語、失行、失認…

失語…音声や文章からの言語の理解や表現が難しくなること
失行…「お茶を入れる」「服を着る」「ご飯を食べる」などの日常的に行う行為ができなくなってしまうことです。



認知症 発見ときっかけについて

初期症状

